



3年生課題研究発表 7月26、27日の2日間、3年生がこれまでの研究成果を地域に向けて発表しました。その様子をお届けします。

山陰探究サミット 7月27日(木)に、平田文化館にて、山陰地区のSSH校、探究学習を推進している高校を中心とした合同発表会を行いました。各高校から選ばれた代表班が集まり、4会場に分かれてこれまでの研究成果を発表しました。各会場では島根県立大学の8名の先生方に審査員として各会場でも最も優れた班を選出いただきました。そして、各会場の代表班は最後にプラタナスホール(大会場)で発表をしました。出雲高等学校からは環8B班「久徳園が崩れたら2-8はどうなるか」、益田高等学校から参加した班は「Change the normal」、また広島県立大崎海星高等学校から参加した生徒は「島ラジオプロジェクト」など、防災、常識に対する意識改革、そして地域活性化の取組について、いずれも現在の日本が抱える様々な問題を自分事としてとらえ、実践を通して解決の糸口を見出そうとする高校生の意欲・熱意が感じられ、大変活気のある発表会となりました。上記以外にも鳥取県からは鳥取西高等学校・米子東高等学校・青翔開智高等学校、島根県内からは松江南高等学校・松江東高等学校・平田高等学校・隠岐島前高等学校の参加があり、探究学習を通じた良い交流の場となりました。



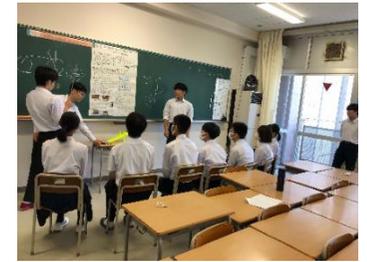
市役所への提言

市役所への提言グループの探究内容は、「出雲そば屋により多くの人に足を運んでもらうには」、「水害が起こった時に山陰県内で安全に避難するには」など、地域活性化・防災・多文化共生・政治・定住など様々な分野のものがありました。発表に向けて、インタビューやアンケートを行い、2年生で行った探究をさらに発展させて提言を完成させました。7月26日の午前中は、探究したことを出雲市役所の観光課、防災安全課など、探究した内容と関係が深い部署の職員の方々へ、パワーポイントを用いてプレゼンテーションをしました。出雲市の現状などについて市職員の方々から様々なアドバイスを頂き、そのアドバイスをもとに出雲市副市長への提言を修正し、27日の午前に伊藤功副市長にそれぞれの班が提言を行いました。副市長へ向けてプレゼンテーションをするということは、生徒にとって特に貴重な経験になったのではないかと思います。この経験をもとに出雲市だけでなく島根県、日本あるいは世界の地域活性化・防災・多文化共生・政治・定住などに目を向けることのできる人間になって欲しいと思います。



キッズのためのスーパーサイエンス

7月26、27日に山陰高校のオープンスクールが開催され、来校した中学生に向けて課題研究の成果を発表しました。今年2月のSSH研究成果発表会は高校生や保護者の方々向けの発表でしたが、発表内容を中学生3年生向けにブラッシュアップし、ポスターにまとめ発表しました。



「転ばない自転車～重心と安定性の関係～」、「有限な数列を使って誕生日を思い出す」など、物理、数学、化学、生命、生活分野の発表を行いました。できるだけ中学生が理解しやすいように模型を使ったり、紙芝居を使って説明したりするなど、各班とも工夫がなされていました。その甲斐もあって中学生も一生懸命理解しようと耳を傾けていました。中学生は発表場所をまわり、1班7分程度の発表を全部で5・6つ聴きました。このことがきっかけとなり、「やっぱり山陰高校で学びたい」と再認識した中学生も少なくないと感じました。

島根大学グローバルセッション

島根大学グローバルセッションでは、7月27日に島根大学へ行き、島根大学の外国人講師の先生方や留学生へ向けて、英語で作成したパワーポイントを用いて英語でプレゼンテーションを行いました。テーマは、「How do we increase the number of Susanoo Magic fans?」、「How to



increase the number of plastic bottles collected」など、地域活性化・環境・多文化共生に関する内容です。英語でのプレゼンテーションや英語での質疑応答に苦戦する生徒が多い中、原稿をほとんど見ず身振り手ぶりを混ぜながらプレゼンテーションする生徒も見られ、頼もしく感じました。発表した生徒たちが、国際化の進む社会で活躍してくれると期待できる、そんな1日となりました。また、外国人講師の先生の講義や大学生の留学体験発表を通して、英語を学ぶ意義や異文化について学ぶこともできました。

7月26日の午前中は、探究したことを出雲市役所の観光課、防災安全課など、探究した内容と関係が深い部署の職員の方々へ、パワーポイントを用いてプレゼンテーションをしました。出雲市の現状などについて市職員の方々から様々なアドバイスを頂き、そのアドバイスをもとに出雲市副市長への提言を修正し、27日の午前に伊藤功副市長にそれぞれの班が提言を行いました。副市長へ向けてプレゼンテーションをするということは、生徒にとって特に貴重な経験になったのではないかと思います。この経験をもとに出雲市だけでなく島根県、日本あるいは世界の地域活性化・防災・多文化共生・政治・定住などに目を向けることのできる人間になって欲しいと思います。

2年生 3学期の研究発表において、着々と準備が進んでいます。

SS探究発展Aゼミ別中間発表（普通科）

10月3日、5日の2日間、本校を会場としてゼミ別中間発表会を実施しました。理系4クラスは、「数理情報学」「物質科学」「生命・食農」「生活科学」の4分野、文系3クラスは、「地域共生」「環境・エネルギー」「多文化共生」の3分野のゼミ領域にわかれた研究班で課題研究を行っています。中間発表会には外部より島根大学、島根県立大学の先生方、出雲市役所やJICAの職員の皆様に外部連携指導員としてお越しいただきました。外部連携指導員の先生方からは「身近なことを研究テーマにして面白い」「熱心に探究活動に取り組む姿勢に感心した」と評価をいただいた一方、「調べるだけでなくもっと行動に移してほしい」「研究の背景や目的のねり込みがもっと必要」など今後の研究に向けての助言も多く頂きました。研究班毎にも具体的な助言をいただき、生徒も自分たちの研究を見つめなおす良い機会となったと思います。その後、10月25日には丸1日課題研究を行う「SS Day」が実施され、各研究班とともに本格的に検証活動を進めていきました。現在は、検証によって得られた情報をまとめる段階に入っており、1月30日と2月1日に行われる校内ゼミ別成果発表会に向けた準備を進めています。



SS探究発展B中間発表（理数科）

2年生の理数科の課題研究では、4月から物理・化学・生物・地学・数学の分野別に4～5名のグループに分かれ、それぞれテーマを設定して活動をしています。10月10日（月）に実施した中間発表では、前半の活動で明らかになったことや、これからの活動の課題や方向性をお互いに発表しました。当日は、島根大学医学部 藤田幸先生、総合理工学部 鈴木聡先生を講師にお招きし指導助言をしていただきました。中間発表以降は、中間発表でもらったアドバイスを参考にしながら、より検証活動を本格化させてきました。現在は、1月に実施する校内成果発表会やシンガポール研修（英語で発表します）に向けてこれまでの成果をまとめています。



ラジオ聞えるかな・・・



斐伊川の流れを検証中



CO₂測定中

1年生関西先端科学研修

1年生は、10月3日から5日の3日間の旅程で、関西研修に出かけてきました。初日は、各訪問先で研修を行った後、ホテルへ帰り、夕食を挟んで、講演会に臨みました。講演会では、本校卒業生（39期）であり、京都大学工学研究科の教授である陰山洋先生からのお話を全員が聞き入っていました。二日目は、7つのコースに分かれ、午前と午後にかけてそれぞれ2つの研修先を訪問しました。いずれの研修先も出雲高校を歓迎してくださり、大変興味深い講義や実習を体験させていただきました。最終日は、午前だけの研修でしたが、まだまだ物足りない様子の子供も多く、この研修期間で知的好奇心を強く刺激されたことがうかがえました。

研修終了後は、それぞれが名残惜しさをもちながら、帰路に着きました。あっという間の研修だったものの、それぞれが今後の学びに生かせるタネを得ることが出来た時間でした。文理選択や進路調べなど、1年次の後半に予定されている活動に向け、大きな期待がもてるものでした。



第2回SSパワーアップセミナー

12月11日（月）に1,2年生全員を対象に標記の講演会を出雲高校で開催しました。開催した目的としては、「学びに向かう力を向上させること」でした。講師として北山頭一氏に来ていただきました。演題は「志高く生きる」として、2時間の講演をしていただきましたが、寒さを感じさせない熱量でお話いただきました。生徒は今まで考えたことはあっても、深く考えたことの無かった「人とは」や「偉人の考え方」等を根拠を示し、教えていただき、充実した時間を送りました。多くの生徒が、今後の生き方の参考になったと感じています。このような体験をとおして、知識や技術を学ぶとともに、人としての魅力を身につけ成長して欲しいと思っています。

<講師紹介>

昭和44年に関西学院大学経済学部を卒業後、松下電器（現パナソニック）に入社、その後は大阪松下LEC（株）社長、松下幸之助商学院学院長歴任
現在は「人生を豊かにする50の道話(どうわ)」など多くの書籍を発表

箕面・学問の道「時習堂(じしゅうどう)」館長

(株)ポラリス代表取締役会長

(株)パナソニックマーケティングスクール特別講師